

CENTER

for Promotion of Higher Education

東洋大学
高等教育推進センターニュース
創刊号



CONTENTS

- p. 2-3 FD推進センターから高等教育推進センターへ
- p. 4-5 平成29年度 学長フォーラム (第7回)
- p. 6-7 平成29年度 新任教員FD研修会
- p. 8 平成29年度 ティーチング・アシスタントFD研修会
- p. 9 English Support Service
- p. 10 授業評価アンケート 完全WEB化
- p. 10 その他の高等教育推進センターの取組
(他機関との連携)
- p. 11 学生FDチームの活動
- p. 11 他大学との交流の輪
- p. 12 高等教育推進センター活動報告

FD推進センターから高等教育推進センターへ

東洋大学では、平成20年度にFD推進センターを設置し、各教員の教育方法の改善を主な目的として、研修、教育改善対策、授業評価手法検討、大学院、編集部会の5部会を設置し、FD活動に取り組んでいましたが、平成29年度より、既存のFD推進センターの機能を強化し、これまでの内発的な活動に加えて、国内外の高等教育の動向を組織的に把握し、本学の新たな教育開発、教育改革へと繋げるべく、高等教育推進センターとして組織を発展させました。

具体的には、事業内容に「国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供」「新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発」を加え、部会構成を既存の5部会から「教育方法改善部会」「FD・SD研修部会」「高等教育研究部会」「教育開発・改革部会」の4部会に再編するとともに、実務を担う専門的な職員として、センター員を配置することとしました。



学長あいさつ

学長 竹村 牧男

このたび、従来のFD推進センターに高等教育にかかる調査・研究の機能を加えて、高等教育推進センターが設立されたことは、本学の教育活動のさらなる高度化実現に向けた基盤が整備されたことを意味し、大変喜ばしいことと思います。同センター設立に向けてご尽力くださいました関係各位に

厚く御礼申し上げますとともに、同センターの構成員の先生方のご活躍に大いに期待しております。

最近の高等教育の世界では、国際的に通用する学士力の涵養と、そのための「教育の質的転換」が最大の課題となっています。また、このことを達成するには、3つのポリシーを起点としたPDCAサイクルを適切にまわしていく教学マネジメントが重要であると指摘されています。マネジメントというとトップダウンの体制を想起されるかもしれませんが、PDCAサイクルの推進は、カリキュラムの策定単位すなわち各学科・専攻にお

いて自主的・自律的に取り組むべき課題であることは申すまでもありません。

特に重要なのは、PDのあとのCではないでしょうか。我々の教育活動が目標に向けてどの程度達成できているのか、どのような問題点があるのかを的確に把握してこそ、さらなる改善へと進むことができます。とすれば、学修成果の測定のための指標開発がぜひとも必要になってきます。もちろん、カリキュラムの策定単位の専門分野は多岐にわたりますので、それぞれの学修成果の測定にかかる、当該分野にあった指標の開発が不可欠でしょう。それは各学科・専攻において、東洋大学の独自性をも加味しながら、主体的に開発すべきものです。

そのためには高等教育推進センターには、その辺の国際的な動向の調査・研究等をもふまえ、具体案等を全学に提案していただきたいと思います。あくまでも学生の際立った成長を保証する教育システムを構築するためにこそ、上述のような課題に地道に取り組んでいただきたいと思います。

高等教育推進センターの今後ますますのご発展をひとえに祈念申し上げます。

センター長あいさつ

高等教育推進センター長 松原 聡（経済学部総合政策学科）

——これだけ科学技術が進歩しているのに、教育だけは明治以来の、黒板と白墨というのは……

本学の菅野卓雄元学長が、20年ほど前に私に投げかけた言葉である。

今、日本全国の大学は、文部科学省の「大学教育の質の保証」の方針のもとに、教育改革に取り組んでいる。しかしそれ以前に、私たちにはみずから、黒板、白墨という明治以来の教育手法についての、真剣な見直しが必要とされているのではないかと。グローバル化の進展、人工知能の進歩などによる大きな社会変動が進行しつつある今、大学は、そうした時代を読み解き、担い、さらに多様な人々と新しい文化を創造する人材の育成が求められている。だが、黒板と白墨による一方通行の、それも多くの場合大人数の講義では、それは難しい。アクティブ・ラーニングが求められるのは、ここにある。

一方、現在、MOOC（Massive Open Online Course；大規模オンライン公開講座）やJMOOCで、web上で無料でさまざまな講義を視聴できるようになっている。私は今年4月、所属する学科の入学生への挨拶でこう述べた。「今日、この場で、MOOC、JMOOCという単語を覚えてください。家に帰ってパソコンでアクセスしてください。日本中、世界中の大学の名

講義を、自由に見ることができます。どんどんそれを見てほしいと思います。そして、もし私たちの講義がそれよりつまらなければ、遠慮なく言ってください。」

本学で在学4年間に学生が負担する入学金、授業料は約400万円である。1コマ2単位の講義に、学生は6.4万円支払っていることになる。私たちがおこなう、6.4万円の「大人数、黒板、白墨」の講義のほうが、web上の、無料のMOOCの講義よりも学生にとって魅力的なのか、の問いが突きつけられているのである。

本学では、スマートフォンなどを用いて、講義で双方向のやりとりが可能なシステム（respon）を導入している。学生に択一式で意見を募れば、瞬時にその結果がプロジェクターに円グラフなどで表示される。また、ひとりひとりの学生の意見も表示され、その場で代表的な意見にコメントすることもできる。私はこれを活用して講義をおこなっているが、講義を見学したresponの担当者は、「先生が、100人の受講生全員と対話をしているようだ」との感想を述べてくれた。

「大学教育の質の保証」をひとつの嚆矢として、これからの時代にふさわしい人材育成にむけて、大学教育の見直しが求められているのである。

教育方法改善部会

長谷川 勝久（文学部教育学科）

高等教育推進センターが新たに設立され、4つの部会が設置されました。その中の教育方法改善部会は、よりよい授業をつくるためにはどうすればよいかという視点から、主に次の2点について取り組んで参ります。

1. 学修成果を可視化することで、学科単位、学部単位、大学単位で、どのような学力が身に付いたかを把握しやすくし、指導に活かせる仕組みづくりを構築する。

2. 授業改善に活かすための授業評価アンケートの活用方法について検討する。

教育環境で最も重要な要因の一つが授業であると考えます。授業をよりよくするためにはどうすればよいかという視点から、様々な具体的な手法を開発していくことで、学生に貢献できるよう努力していきたいと思っております。



写真左から堀教育開発・改革部会長、長谷川教育方法改善部会長、松原センター長、千明FD・SD研修部会長、角谷高等教育研究部会長

高等教育研究部会

角谷 昌則（生命科学部生命科学科）

高等教育研究部会は、高等教育推進センター発足に伴って設置された新たな部会です。活動方針として、「国内外の高等教育の動向調査・研究」、「教育の国際標準化のための動向調査」、「学会、他大学との連携、情報交換」などが掲げられており、こうした活動を通じて本学の高等教育機関としての質的向上に寄与・貢献することが期待されています。

当部会には異なる学部・学科およびキャンパスから7人の教員が所属しています。まずは46もの学科を有する総合大学としての本学の実態を的確に把握し、そこに部会のメンバーが持つ多様な専門性や持ち味を活かしながら、国際標準を十分に満たした教学体制の実現に向けて尽力する所存です。

冒頭にも記しましたように、何分にもまだ生まれたばかりの若い組織であり、それゆえにこれからさまざまな方々のご指導ご支援を賜りながら歩いていくことになると思います。何卒宜しくお願いを申し上げます。

FD・SD研修部会

千明 誠（経済学部経済学科）

FD・SD研修部会は、昨年度までのFD推進委員会における教育改善対策部会、研修部会、編集部会の活動を整理統合し、新たにSDを加えた幅広い活動を担当する部会です。具体的には、TAや新任教員に対する研修会、FD・SDに関する講演会やワークショップの企画・実施、広報活動などが主な活動内容となります。

本部会の目的は、こうした活動を通じて、教職員それぞれの役割に応じた専門能力の習得・向上に資することにあります。今までの活動内容を踏まえ、他大学での様々な取組等も参考にしつつ、他の部会とも連携して、必要な情報・知識を学内全体に効率よく提供できるように当部会の活動に取り組んでいく所存です。

これまで教育改善対策部会長を務めさせていただいた経験を基にして、FD・SD研修部会の企画・運営を通じて本学教育活動の向上のために努力していきたいと存じます。



教育開発・改革部会

堀 雅通（国際観光学部国際観光学科）

教育開発・改革部会は、FD推進センターから高等教育推進センターに発展したことに伴い新たに設置された部会であり、本学の授業のさらなる改善・発展のために、①新たな教育形態（ICT、反転授業、その他）の研究、②アクティブ・ラーニングや主体的学習の促進、③学部横断教育プログラムの開発の3つの活動をおこなっています。

今後の展開としては、現在、各学部・各学科、さらには各教員がすでに実施している、ないしは計画中の新たな教育形態（ICT、反転授業、その他）及び学外における最先端の研究概要に関する情報を整理し、ToyoNet-ACEを活用して各種資料のデータベース化と効率的な共有をはかることを構想しています。他の部会や他機関との連携も視野に入れつつ、実現にむけて尽力する所存して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成29年度 学長フォーラム（第7回） 「教育の質保証に向けて～学生の学習成果をどのように測るのか～」



日 時：平成29年8月4日（金） 13：00～17：00
会 場：125記念ホール（白山キャンパス 8号館7階）

プログラム

- 13：00～13：30 開催挨拶・趣旨説明 学長 竹村牧男
13：30～14：30 基調講演 演名 篤 氏（関西国際大学 学長）
「組織的教育と重層的・多層的な学修成果～多様な学生をいかに成長に誘うか～」
14：30～14：50 休憩
14：50～16：10 各学科事例報告4学科（中長期計画に基づく取り組み計画から）
①経営学部経営学科 「経営学科における教育の質保証に向けた取り組み」
②食環境科学部食環境科学科
「卒業論文総合評価システム、その他質保証に向けた取り組み」
③ライフデザイン学部人間環境デザイン学科
「『デザイン会議』『教室会議』を両輪としたアクティブラーニングの運営」
④総合情報学部総合情報学科
「コンピテンシー評価実施手法開発の取り組み」
16：10～16：40 質疑応答と講評
16：40～17：00 総括 副学長 松原 聡
司会進行 副学長 高橋 豊美



発表者の声



経営学部経営学科 学科長 野中 誠

このたびの発表は、経営学科における教育の質向上に向けたこれまでの取り組みを振り返り、新たな課題を浮き彫りにする良い機会となった。

経営学科では①中核科目の履修促進、②少人数教育を通じた社会人基礎

力の育成、③学びへの動機づけ、の3つを主要課題とし、2016カリキュラム改革を軸にさまざまな施策を手がけてきた。その検証の手段として「経営学科KPI」を定め、履修状況、就職、学生満足度、入試の観点から状況を俯瞰できるようにした。また、学科独自アンケートを実施して「学生の声」を教職員のみならず学生と共有するなどしてきた。これらの指標等を通じて、各種の施策に一定の効果があったことを確認してきた。

しかし、これらは教育プログラムの評価であって、学生が「何ができるようになったか」の評価には至っていない。教育プログラムの改革・改善の成果として、学生がどれだけ伸張したのか。これを直接的に測定することの必要性を、今回の発表によって改めて認識することができた。このような機会を設けていただいた関係各位にこの場を借りて御礼申し上げる。



ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 学科長 櫻井 義夫

教育の質向上に向けての自己評価が意味を発揮するには、教員の自己の評価であるだけでなく、学生と教員の間に生み出された目標に向かう緊張関係に中に、より客観的かつ理想的な状況を具体的な目標として定め、理想の実

現に向けての道筋を策定してゆく行為を意識的に推し進め、常に上位の価値を目指すことが必要なのだと思う。人間環境デザイン学科の使命は、多様な価値観の尊重であり、デザイン力の向上であり、デザイン思考において国際的な価値に照らしても一定の水準を保つことである。したがって学外との競合の中に自らの位置を定めるための実践的な活動に、その基準を置かなければならないと考える。産学連携や海外教育機関との連携事業において、実践的な物作りがますます求められている。教育プログラムの評価はそうした活動の成果を評価せずして語ることはできないのだと思う。学科としてはますます客観的に見て、高いレベルの成果品を提示してゆく意志を持ち続けながら、学生一人一人との対話を深めてゆきたいと考えている。そんな中で、今回いただいた発表の機会は、私達にとってはよい緊張感を与えていただいたと感じている。目標の具体性をさらに深めながら、学生の満足度のさらなる向上に向けて努力を重ねてゆく所存である。



総合情報学部総合情報学科 学科長 塩谷 隆二

学長フォーラムにおいて、「コンピテンシー評価実施手法開発の取り組み」と題し、総合情報学科の中長期計画の中で「コンピテンシー評価基準の作成」項目として、「行動計画：学生の学習到達度を評価するためのコンピテン

シー評価基準を作成する」と掲げている点を中心に発表を行った。大学院の総合情報学研究科では今年度よりコンピテンシー評価基準の作成と実施を行っており、研究科ではIPA(独立行政法人情報処理推進機構)が公開している評価基準を学生向けにアレンジしたものを採用している。この結果を元に学部への導入を検討しており、評価項目は大学院と共通とし、ただし、基準は明確に差をつけることを検討している点、また、コンピテンシー評価はアンケートによる自己評価のみとなるため、客観的データを複合的に評価に取り入れられないか、授業評価アンケート等を含め、学生の回答意欲を向上させる、仕組みやツールの導入計画について紹介した。発表後の議論から、全学で実施しているPROGデータの活用などの提案も受け、学生の伸張度を高める環境作りを学科全体で進めていくことが重要であることを確認できた。



食環境科学部食環境科学科 学科長 福森 文康

学長フォーラムにおいてご紹介した卒業論文総合評価システム等についての本学科の構想は、学科全体での教育の質保証を進めるために大事なものである。シラバスの相互点検とコアカリ

キュラムの見直しは、学力面での学士力の担保に、それらに対する外部評価の導入は、社会のニーズに応えるための人材育成に繋がってゆく。一方で、卒業論文総合評価のためのルーブリックの開示は、極めて難しい問題を含んでいる。教員と学生の価値観や認識のずれを狭めるために、評価の基準を学生に示すことは、学生にとって自身がなすべき事を行うための意識づけに非常に効果的であると思う反面、評価されうる事項を遂行することに重きを置き、評価の基準に含まれない事柄に対して無価値であるかの誤解をさせてしまう恐れがある。卒業研究の実施や卒業論文の制作過程において、どのような評価項目を盛り込み、どのような評価基準を示すのか、教員の資質が問われるものと考えている。



参加者の声

次期認証評価では大学改革の実質化が問われることとなる。その検証に必要な取組の一つが、今回の主題となった学修成果の可視化であるが、基調講演、4学科の事例発表ともに得るところが多く、とても参考になるものであった。

濱名篤先生の基調講演を拝聴して認識を新たにしたのは、学位プログラムの重層的、多面的な評価の必要性が、個々の授業科目との類推で捉えられることである。例えば、授業目標を設

教務部長 高橋 豊美（法学部法律学科）

定し、その達成のための授業計画を示すことがD PとC Pの関係にあり、期末試験だけでなくリフレクションや小テスト・中間テストで学修の進捗を確かめることが重層的な評価に相当すると考えれば、その有効性が理解できる。多元的評価、評価項目の特性に応じた適切な評価方法（定量的・定性的）の必要性も同様である。この気づきのおかげで、4学科の事例についても理解が深まり、また、自身の授業改善にも有意義な示唆が得られたことは収穫であった。



当日は約100名もの教職員が参加しました

平成29年度 新任教員FD研修会

FD・SD研修部会長 千明 誠（経済学部経済学科）

日 時：平成29年 7 月 8 日（土） 10:40～13:00

場 所：白山キャンパス 10号館 3 階A301教室

対 象：平成29年度東洋大学新任教員

参加者：新任教員54名・ファシリテーター 9 名

総合司会：FD・SD研修部会長 千明 誠（経済学部経済学科）

プログラム：

10:40～10:50 開会のあいさつ FD・SD研修部会長 千明 誠（経済学部経済学科）

10:50～11:20 グループディスカッション①

「ご着任後 3 か月を振り返り、東洋大学の学生に思うこと、授業について感じること」

11:20～11:30 レスポンの操作説明・グループディスカッション①ふりかえり

11:30～11:40 席替え・休憩

11:40～12:00 講演 副学長・高等教育推進センター長 松原 聡（経済学部総合政策学科）

12:00～12:40 グループディスカッション②

「学生の意欲的・主体的な授業参画を促す授業をおこなうためには？」

12:40～13:00 グループディスカッション②ふりかえり・質疑応答

13:00～ 閉会のあいさつ 副学長・高等教育推進センター長 松原 聡（経済学部総合政策学科）

13:15～ 懇親会

平成29年 7 月 8 日（土）に「平成29年度新任教員FD研修会」が開催されました。この研修会は東洋大学の新任教員を対象とし、本学のFD活動についてご理解いただくとともに、各教員の持続的な教育改善活動の支援を行うことを目的としたもので、例年、ご着任後 3 か月ほど経過し、本学の校風に慣れ、実際の授業運営に対する課題等が顕在化するこの時期に実施しています。

今年度のプログラムは、東洋大学の「組織的な教育」を担うチームの一員としての意識を共有するためのグループディスカッションと高等教育推進センター長の講演から構成され、高等教育推進委員会メンバーがファシリテーターとなり、9つのグループによってグループディスカッションが実施されました。

前半のグループディスカッションでは、参加者は、日ごろ接する機会の少ない他学部の方々と、本学学生の気質や教育・研究環境等に関して率直に意見を交換しました。後半のグループディスカッションでは、前半とは異なるメンバーとの間で、学生の授業参画を促す授業設計について議論を行いました。また、各グループの議論はresponを使って全体で共有しました。

高等教育推進センター長の松原聡副学長のご講演では、MOOCの出現に代表されるように、高等教育を取り巻く環境が激変する中で、本学の教育も変化が必要があること、具体

的には、ICTを活用した双方向のアクティブラーニングの必要性が強調されました。また、高等教育推進センターの取組として、各学部・学科の基礎的データの収集・整理・フィードバックを通じて、各学部・学科ごとの教育改善活動を支援する活動についての説明がありました。

和やかな雰囲気の中で活発な議論が展開され、グループディスカッションやrespon等のアクティブラーニングの手法も体験でき、大変有意義な研修会になったと感じております。

最後に、お忙しい中ご参加くださいました新任教員の皆様に厚く御礼申し上げるとともに、今後ともFD活動の取組にご尽力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



研修会はグループディスカッションを中心に進行了ました

参加者の声

新任教員FD研修会に参加して

岩田 千亜紀（社会学部社会福祉学科）



平成29年7月8日（土）に、白山キャンパスで行われた新任教員FD研修会に参加しました。東洋大学に着任してから3ヶ月が過ぎ、自分が学生だった頃との違いや、はじめての英語での授業に戸惑いを感じていた矢先であり、課題解決のための良い機会にしたいと思

い参加しました。

まず前半のグループディスカッションでは、なぜか外国出身の先生方のグループに振り分けられてしまったため、英語でのディスカッションとなりました。「東洋大学の学生に思うこと、授業について感じること」というテーマについて、活発な意見交換が行われました。大学に着任してから、外国出身の先生方とお話する機会はなかったため、それらの先生方の意見を伺う良い機会となりました。

後半は席替えと休憩を挟んで、別の日本人の先生方のグループディスカッションに参加しました。今度は「学生の意欲的・主体的な授業参画を促す授業をおこなうためには？」をテーマに、各人の意見を交換しました。なかでも英語での授業の進め方については、学部の違いを超えてほとんどの先生方がさまざまな悩みを抱えつつ授業を行っていることを知り、新鮮な驚きを感じました。時間が限られていたため、十分なディスカッションができず残念でしたが、普段会う機会の無い先生方とディスカッションができたことは大きな収穫だったと感じています。

最後になりましたが、このような研修機会を設けて頂いたことに、感謝申し上げます。

ファシリテーターとしての参加

吉田 明子（経済学部経済学科）

新任教員FD研修会に、グループディスカッション（GD）のファシリテーターとして参加した。

GD1では、新任の先生方6名のグループに入ったが、助教から教授まで様々であり、キャンパスも朝霞・川越・白山とバラエティがあった。東洋の学生はおとなしい、積極性に欠けるといった意見が多く、どのように意欲を引き出すかが共通の課題であると感じた。また、多様な学生（学力差、意欲、メンタルを含む健康面）に対していかにきめ細かく対応していくかも重要である。

GD2では、「文系・演習」というくくりで、GD1とは異なる6名のグループに参加した。ライフデザイン学部生活支援学科の先生方からは、実習やフィールドワークに参加する際の悩みが多く出された。また、質問が出ないがどうすればいいか？という悩みに対しては、口頭だけでなくまず書かせる、根気よく待つなどの意見が出た。上級生をSAとして参加させるというのでは、という意見もあった。

参加したグループにおいては、各教員の悩みに対して、所属の異なる教員がそれぞれの立場から情報提供やアドバイスをする、という形になり、有益であった。今後、新任教員以外でもこのような場があるといいと感じた。

グループディスカッション① テーマ「ご着任後3ヶ月を振り返り、東洋の学生に思うこと、授業について感じること」	
目標：他学部他学科の先生と情報・意見を交換し、東洋大学を取り巻く状況と東洋大学の学生の実態を徹底的に把握する	
10	(1) 随分と様々な授業を担当する教員が揃っていますか？
11	4
12	5
13	6
14	7
(2) 意見を引き出す～前当授業にはどんな学生が参加していますか？悩んでいること、知りたいことはありますか？～	
★学生について ・学力差にどう対応するか（授業についていけない「学生をどうフォローするか」。 ・部活や専攻に關しては、考慮する。 ・一方で、基礎固めや学習を怠るような学生は、微達したい。いようがやのではない。 ・必殺と微達ではまた違ってくるのでは。 ★学生対応について ・学生の積極性を引き出すことが重要であることは参加者全員が認識しているが、どの程度強く指導しているのか、どの程度の厳しさを全員が求めている。 ・微達は事前準備なしのものを多く。 ・OJやOJや他職しているテーマに関連する分野の人をがみに呼ぶ。 ・教員が積極的に意見を求める、これによって自ら積極的に発言する学生もいる。 ・それによって「自主性」は育まれるのだろうか？ ・比較的発言出来る学生とそうでない「学生にどう関わりか」を認識する。 ・学力に差がある中で、1学期前半のどの機会にどう関わるかを考える。	
15	(3) 意見を整理する～グループディスカッションで得たことが上だった東洋大学を取り巻く状況・東洋大学の学生の実態とは？～
16	10
・多様な学生（学力差、モチベーション、メンタルを含む健康面）が混在しているため、どこまできめ細かくこれにアプローチできるかが重要な問題。 ・おとなしい学生が多い。自主性の大切さを理解し、積極性を身につけてほしい。	

当日のグループディスカッションシート

研修会当日の様子



他国籍グループでは英語で白熱した議論が行われました



可動式のホワイトボードを活用することでより活発な議論が展開されました

平成29年度 ティーチング・アシスタントFD研修会

大学教育の「質保証」に資するため、専任の教職員を補助する人員として、ティーチング・アシスタント（以下、TA）の役割がますます重要になってきています。本研修会は、本学における継続的な教育改善の取り組みの一環として、新たにTAとして教員の授業補助にあたる学生を対象に、毎年度春学期に実施しています。また、川越・板倉キャンパスでは、TAに加え、スチューデント・アシスタント（以下、SA）も参加対象とし、理系科目特有の役割や業務について、TA/SAの共通理解を深める機会としています。

本研修会は、各キャンパスの高等教育推進委員により、4キャンパス合計162名の参加者のもと、第1部「TA制度の概要説明」第2部「グループ討論・質疑応答」の二部構成で実施されました。

日 時：平成29年4月15日（土）13：00～15：00
（白山・川越・板倉キャンパス）
平成29年4月19日（木）14：40～16：40
（朝霞キャンパス）
場 所：各キャンパス会場
参加者数：162名
（白山16名・川越82名・板倉60名・朝霞4名）

プログラム：
（1）開会のあいさつ 13：00～13：05（5分）
（2）第一部 TA制度の概要説明 13：05～13：15（10分）
（3）第二部 グループ討論 13：15～14：05（50分）
（4）休憩 14：05～14：15（10分）
（5）発表・質疑応答 14：15～14：55（40分）
（6）講評・閉会のあいさつ 14：55～15：00（5分）

発表者の声

白山キャンパス

松丸 亮（国際学部）

白山キャンパスでのTA/SA研修会は、今年度よりTAとして採用された大学院生及び社会人16名が参加し、2017年4月16日（土）に開催されました。研修は、『TA/SAハンドブック』の内容に関する講義と「参加者によるグループワーク」で構成され、講義では、TA/SA制度の概要、教育補助の目的と役割について解説し、TA/SAが教育補助員としてどのように授業や学生に関わっていくかということを理解してもらいました。後半は3つのグループに分かれてグループワークを行いました。グループメンバー同士で『ハンドブック』の理解度の確認を行った後、「TA/SAとして授業をとっている学生たちにどのように接するか」について、ディスカッションをしてもらいました。グループワーク後の発表と意見交換では、TA/SAと学生という距離の近さと守るべき行動規範の難しさについて様々な意見が出され、活発な議論がなされました。発表や議論を通じて、参加した学生がTA/SAの役割を理解していく様子が確認でき、意義のある研修会であったと考えます。

板倉キャンパス

井上広子（食環境科学部）

今年度の板倉キャンパスのTA/SA研修会は、4月15日（土）に開催され、60名の参加があった。前半は、TA/SAハンドブックを教材としてTA/SAの役割、板倉キャンパスで多い理系科目における業務の具体例、実験に際しての留意点、ハラスメント、個人情報保護の留意点等についての講義を実施した。後半は、グループに分かれ、前半で学んだことの理解度テストを実施し、その後「クラスで親しくなった学生からコンパに誘われ、メルアド等の連絡先を交換したいと言ってきた。どう対応すべきか」という課題についてグループディスカッションを行った。研修



会終了後、多くの学生より授業を円滑に進めるために、TA/SAが教員と連携し、責任感を持って業務に携わることの重要性を理解できたとの意見を聞くことができ、意義のある研修会の開催ができたと考えている。また今年度初めて留学生の参加があった。TA/SAハンドブック等において英語での対応が出来ていないことが課題として挙げられた。国際化を推進していく本学にとって、留学生のTA/SA対応についても今後検討していく必要があると考えている。

朝霞キャンパス

是枝 喜代治（ライフデザイン学部）

今年度の朝霞キャンパスのTA研修会は、4月19日（水）の午後に開催され、大学院生5名が参加しました。研修会では、前半は「TA/SAハンドブック」による講義を行い、後半は参加者5名とファシリテーター役の教員を交えたグループディスカッションを行いました。グループディスカッションでは、「大講義室での受講者の多い講義は私語が多く、どのように対応すれば良いか」「演習形式の授業で個別に学生に関わっていると、他の学生に関わる時間がなくなり、均等に関わることができない」「学部出身で知り合いも多く、後輩の学生からコンパに誘われた時、どう対応すればよいか」など、様々な観点からの悩みや意見が出されました。また、各内容について異なる研究科やコースに所属する立場で意見を出し合うなど、大変有意義な議論ができたと思います。TAとして共通認識の持てる内容も多く、改めて教員とTAとが密に連携して授業にあたることの重要性を確認できました。



川越キャンパス

藤松 信義（理工学部）

川越キャンパスでTA/SA研修会が4月16日（土）に実施された。今年度は82名（TA 42名、SA 40名）が参加した。研修目的は、TAとSAが教育補助員として授業で主体的に行動できるようになることである。初めに、TA、SAの基本的な心構えと学生指導に関する注意点を述べた後、教育補助員としての期待を述べた。次に、研修会前に配布したTA/SAハンドブックの理解度を確認するワークシートを元に、グループ討論を行った。学生の指導方法、学生との距離感、非協力的な学生への対応などを確認しあい、TAとSAの役割の違いとその責任について一層理解を深めることができた。担当教員とTA、SAの連携が円滑であることが、学生が講義を受けやすい環境に繋がると考える。担当教員は教育補助員と講義の進め方について十分に話し合ってもらいたい。またTA、SA業務を通じて、教育補助員が自身の成長を実感できることを期待しています。



English Support Service

英文や英語表現に関するコンサルテーションがはじまりました

高等教育推進センターでは、平成29年5月より、本学における教育の国際化のサポートを目的として、英語を母国語とするスタッフを各キャンパスに派遣し、英語による授業を行なう教員、英語論文を執筆する大学院生、及び英語の事務文書を作成する職員の英語のネイティブチェックや対面相談を行なうEnglish Support Serviceを開始しました。

日程：ポスターまたはガルーンをご確認ください

場所：白山キャンパスを中心に、朝霞、川越、板倉キャンパスへの出張サポート

対象：教員、職員、大学院生

サポート方法：マンツーマンレッスン（1人あたりの対応時間は30分～120分程度）
Web予約（ガルーン）、メールを利用したアポイントメント（優先制）

サポート内容：

【主たる業務】

①英語による授業を行う教員の授業方法（授業内でのクラスルーム・イングリッシュ）や授業設計に係る相談、英語版のシラバスや教材のネイティブチェック、アドバイス

②英語による授業の参観とその後のフィードバック

③英語による授業を行う教員向けのミニセミナーの開催

【その他、教員のアポイントメントの空き時間を活用した業務】

④大学院生の英語論文のネイティブチェック

⑤職員の事務文書等のネイティブチェック

⑥TOEFL等の学生向けの英語試験対策セミナーやその他英語学修関連セミナーの開催



講師のMatt Fuller先生

★ English Support Service 教職員 専属英語サポート ★

Classroom English

英語による授業の参観 & フィードバック

英語による授業の設計

英語シラバスや教材のネイティブチェック

大学院生の英語論文 ネイティブ・チェック

職員の事務文書等の ネイティブチェック

FREE CONSULTATION

Hi, Matt Fuller here from Bath, England. I'm looking forward to seeing and having you in Toyo's English support service. Let's smile, enjoy and develop together by working within a friendly, supportive atmosphere. Please get in touch as I'm looking forward to meeting you all very soon.

https://goo.gl/U6TPVU (ガルーン利用(専任教職員)) または mleigosoudan@toyo.jp から予約できます (画面参照)。

✓ 予約はガルーンで3ステップ ✓ 原則60分、最大120分(授業参観の場合)

✓ メール予約も受付可 ✓ 事前の資料確認依頼OK

✓ 2h前まで予約OK (ガルーンのみ)

✓ 本学専属の常駐スタッフ

お問い合わせ 高等教育推進支援室 電話 内線4275(板倉・佐藤・阿部)

※サポートの内容は、英文や英語表現に関するコンサルテーションに限ります。日本語文書を翻訳するといったサービスではありません。

利用者の声

English Support Serviceを利用して

石塚 智佐（法学部企業法学科）

本学に着任して2年目。週2コマの英語の授業（International Law, International Relations）も2年目を迎えた。1年目は毎回の授業準備をするだけで精一杯だったが、2年目となった今年はもう少し内容を充実させたいと思っていた。そのような折にEnglish Support Serviceが開始されると知り、今更かもしれないが授業で用いるパワーポイントや配布資料の英語表記のチェックをしてもらおうと思い、軽い気持ちで予約した。担当のMattは英語のチェックはもちろん、内容に関してもアドバイスや感想、質問をしてくれ、形式だけでなく内容の改善も図ることができていると思う。Mattは私の担当授業科目内容に詳しいわけではないが、その分学生目線からの発言をしてくれ、また、常に同じ担当者であるため、以前に話した内容を踏まえながら会話ができて、持ち時間を効率よく使えるのも有難い。さらに、授業内容をMattに説明することで授業の予行練習にもなり、どのような論点が足りないのか等の頭の整理にもなっている。Mattは白山キャンパスに隔週で来るため2週間に1回1～2時間予約しているが、そうすることで、授業準備に一定の目安を作れるようになった。私の授業を受講する学生は英語力の高い欧米の留学生が中心であるため、自分の英語力等に不安な部分も多かったが、Mattが励ましてくれることもあり、少しずつ自信が持てるようになった。

このように私にとっては非常に有難い制度であり、今後も継続的に利用させていただきたいと強く思っている。

事務局としての活用

松本 友依子（学長室学長事務課）

English Support Serviceを利用したきっかけは、学内の英語表記への取り組みが進んだことにより、英文の確認業務が増えたことでした。私は学長秘書担当の一人であり、学長が執筆された原稿の英訳をより完成度の高いものとするため、ネイティブチェックを利用しています。

このサービスは英語でのやり取りですが、講師であるMattはとても親切かつフレンドリーで、語学に自信のない私でも安心して自身のペースで文書の内容を伝えられています。急な申請にも快く対応くださり、原稿の校正はあまり猶予がないことも多いので大変助かっています。また、依頼した校正作業に加え、講師なりの視点で気の利いた一文を追加しブラッシュアップするなど丁寧に仕上げていただけるので、信頼してお願いできるのがとてもありがたいです。当日予約可能な手軽さも魅力です。

既に校正業務のフローにEnglish Support Serviceでの確認を入れており、これからも恒常的に利用させていただく予定です。



講師のMatt先生はいつも親身に相談にのってくださいます

授業評価アンケート 完全WEB化

完全Web化へ。

授業評価アンケートが、
変わります。

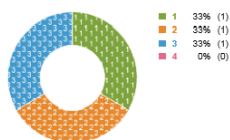


授業運営について

B1. シラバス(講義要項)に則した内容の授業が行われていたと思います。(選択必須)

1.9 グラフ表示

1. ☐ そう思う
2. ☐ わりにそう思う
3. ☐ あまりそう思わない
4. ☐ そう思わない



アンケート結果の即時表示機能

今年度も授業評価アンケートの実施にご協力をいただきありがとうございました。授業評価アンケートの実施に際し、今年度は3点大きな変更がありました。

1点目は、マークシートで行っていたアンケートを完全にWebベースに切り替えたことです。回答率の大幅な低下が懸念されていましたが、最終回答率は55.7%とマークシート時と比して遜色ない結果となりました。

2点目は、アンケート結果が当該授業科目の履修生に公開される仕組みとなったことです。さらに、教員の任意により、授業中に実施したアンケート結果の即時表示(グラフ自動生成)も可能となりました。

3点目は、従来、各教員が学期末に教員用のアンケート結果表を受けとった後に各学部に提出していた所見用紙に代わり、授業終了後に配信される学生公開用アンケート結果を確認した後に、学生へのフィードバックコメントを入力する形式となったことです。これにより、教員は自身で授業に対する振り返りを行なうことのみならず、履修生への次学期に向けた学習に関するアドバイスなどを含めたフィードバックを行うことが可能となりました。学生、教員ともに授業改善のPDCAに参画し、より充実した授業環境が構築されることが期待されます。

上記の変更については、いずれも平成27年度より多くの教員・学生にご協力いただいたトライアル実施結果を踏まえて実現した取組の改善であり、これまでトライアル実施にご協力いただいた教員・学生の皆様、及び今年度からの大幅な実施方法の変更にも関わらず、高い実施率の確保にご協力いただいた教員・学生皆様に感謝するとともに、今後とも継続して取組の更なる向上へ向けた検討を進めていきます。

その他の高等教育推進センターの取組 (他機関との連携)

◆教育目標・評価学会 2017年度中間研究集会の後援
テーマ:「AI(人工知能)時代における公教育一求められる能力と学校の役割―」
日時:平成29年6月17日(土) 14:00~17:00
会場:東洋大学白山キャンパス 6号館 2階6202教室
主催:教育目標・評価学会
後援:高等教育推進センター

◆TokyoJALT主催ワークショップの後援
テーマ:「Get Going with Google: Digital Pedagogy & Flipped Learning with G Suite for Education!」
日時:平成29年6月23日(金) 18:00~20:00
会場:東洋大学白山キャンパス 3号館 2階3201教室
主催:Tokyo JALT (Japan Association for Language Teaching)
後援:高等教育推進センター

◆「2017年度教育IRフォーラム」における事例発表
テーマ:変革する大学!「学修成果の可視化」から教育・授業を変える~教学データやIR分析に基づく改革の実践へ~
日時:平成29年7月30日(日) 14:00~17:30(開場 13:30)
会場:キャンパスプラザ京都 5階 第1講義室
主催:株式会社リアセック・公益財団法人 大学コンソーシアム京都
本学の事例発表テーマ:「大学教育活性化への東洋大学の挑戦~IRの全学的取組の結果、見えてきたもの~」
発表者:高等教育推進センター長 松原 聡(経済学部総合政策学科)

学生FDチームの活動

柊平 健貴(国際地域学部国際地域学科3年)・薩川 拓也(社会学部第2部社会学科3年)

「学生・教員・職員」三者協働で授業改善を目指して

東洋大学学生FDチームは、「東洋大生がより主体的に学び行動し、東洋大生であることに誇りをもてる大学をめざして」を理念に掲げ、2010年度に発足した団体です。2015年度以降、高等教育推進センター(旧FD推進センター)直属の団体になりました。FDの概念に基づき、学生・教員・職員が三位一体となって、本学の授業改善を目指しています。今年度は、学生FDチームのメンバーが不足しており、活発な活動が進んでいないのが現状です。そのため、学生が本学の教育についてどう思っているか語り合う「しゃべり場」を開催し、今後わたしたちが目指したい授業像について、学生FDチームメンバーだけではなく、学生全員で考える機会を構想中です。また、他大学のFD活動状況を知らするために、年2回開かれる「学生FDサミット」への参加を予定しています。



学生FDチーム ニュースレター no.10を
発行しました

他大学との交流の輪

関東圏FD連絡会

◆第23回連絡会

日時：平成29年3月7日 15:30～17:00

場所：青山学院大学 青山キャンパス15号館5階第13会議室

◆第24回連絡会

日時：平成29年6月30日 15:30～17:00

場所：法政大学 市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー
25階B会議室

「関東圏FD連絡会」は、平成21年度より、青山学院大学、法政大学、立教大学、國學院大学(平成28年度より加入)、東洋大学のFD担当者が集い、同規模の私立大学が抱えるFD活動の問題解決と情報収集を目的とした意見交換会を開催しております。

全国私立大学FD連携フォーラム/JPFF

◆2017年度第1回総会・パネルディスカッション

日時：平成29年6月3日

場所：中央大学 駿河台記念館285号室

全国私立大学FD連携フォーラム(JPFF)は共通の課題を抱える私立大学が協力し、FD分野で連携することを目的に活動しており、本学は2013年度より加盟しています。加盟大学の教員はJPFFが提供するオンライン講座「実践的FDプログラム」の利用が可能です。こちらでは、教員のアカデミック・プラクティス(教育、研究、社会貢献、管理運営)について、興味のある講義から好きな時間に学ぶことができます。今年度は25名の先生方が受講中です。現在も申込を受け付けておりますので、ToyoNet-ACE「高等教育推進センター(研修会等)」コースをご確認ください。

高等教育推進センター活動報告（平成29年3月～8月）

高等教育推進委員会

◆平成28年度第7回（FD推進委員会第V期通算第13回）

日時：平成29年3月24日（金） 13:00～14:30

報告 1 各部会活動状況報告（部会長より）

報告 2 センター長報告

- ①English Support Serviceの開始について
- ②関東圏FD連絡会（3/7）の開催について
- ③学生FDチーム活動報告

審議 1 平成29年度授業評価アンケートの実施について

協議 1 平成28年度FD推進委員会の活動の振り返りと課題の抽出について

◆平成29年度第1回（第I期通算第1回）

日時：平成29年4月17日（月） 18:00～19:30

報告 1 平成29年度ティーチング・アシスタント F D研修会について

報告 2 English Support Serviceの開始について

報告 3 授業評価アンケートのWE B実施に向けた進捗状況について

審議 1 平成29年度高等教育推進センターの活動方針について

審議 2 部会長の選出及び委員の各部会への配属について

協議 1 平成29年度高等教育推進センター活動スケジュールおよび委員会の運営について（会議日、連絡方法等）

協議 2 学部F D活動状況報告会について

◆平成29年度第2回（第I期通算第2回）

日時：平成29年5月24日（水） 18:00～19:00

報告 1 各部会活動状況報告

報告 2 センター長報告

- ①ICTを活用した授業の促進に関して（5/24公開授業）
- ②English Support Serviceの利用状況について
- ③学外機関との連携について（6/17教育目標・評価学会）

協議 1 各部会活動計画について

◆平成29年度第3回（第I期通算第3回）

日時：平成29年7月10日（月） 18:10～19:40

報告 1 各部会活動状況報告（部会長より）

報告 2 センター長報告

- 学長フォーラムについて（8/4 13:00～17:00白山キャンパス125記念ホール）
- PROGテスト結果の概要について
- GPA等の成績情報の分析について
- English Support Serviceの利用状況について
- 学外機関との連携について（7/30コンソーシアム京都主催 教学IRシンポジウムへの参加）

協議 1 ToyoNet-ACEを用いた教材共有スペースの活用について（教育開発・改革部会）

部会長会議

◆平成29年度第1回

日時：平成29年4月27日（木） 13:00～14:20

議題 1 高等教育推進委員会の運営方針について

議題 2 各部会での検討事項について

◆平成29年度第2回

日時：平成29年7月6日（木） 18:10～20:00

議題 1 平成29年度新任教員FD研修会開催について

議題 2 第1クォータの授業評価アンケート実施状況について

議題 3 高等教育研究部会の研究テーマについて

議題 4 教育開発・改革部会におけるICT活用のためのプラットフォーム作りについて

教育方法改善部会

◆第4回部会（旧：授業評価手法検討部会）

日時：平成29年3月14日（火） 15:00～16:00

議題 1 平成28年度秋学期Web授業評価アンケートトライアルの振り返りと次年度全学実施に向けた検討について（報告書の作成）

議題 2 平成29年度Web授業評価アンケートの全学実施について（案）

議題 3 次年度に向けた部会の活動の振り返り

議題 4 その他

◆第1回部会（メール会議）

日時：平成29年5月6日（土）

議題 1 平成29年度における部会の活動計画について

FD・SD研修部会

◆第1回部会（メール会議）

日時：平成29年4月27日（木）

議題 1 平成29年度における部会の活動計画について

◆第2回

日時：平成29年6月1日（木） 18:15～19:45

協議 1 新任教員FD研修部会の開催時間について

協議 2 新任教員FD研修部会の企画内容について

◆第3回（メール会議）

日時：平成29年6月5日（月）

審議 1 新任教員FD研修部会のプログラムについて

高等教育研究部会

◆第1回部会（メール会議）

日時：平成29年4月29日（土）

議題 1 平成29年度における部会の活動計画について

◆第2回部会

日時：平成29年5月23日（火） 16:30～18:00

報告 1 部会長会議報告

報告 2 その他（部会委員・事務局）

協議 1 大学のIRと高等教育の動向調査・研究に関して

協議 2 2017年度部会「活動計画書」の検討

◆第3回

日時：平成29年6月20日（火） 16:30～18:00

協議 1 調査研究テーマの検討と確定

協議 2 今年度の活動スケジュールの検討と確定

協議 3 調査研究を遂行するための運営体制についての検討と確定

教育開発・改革部会

◆第1回（メール会議）

日時：平成29年5月11日（木）

議題 1 平成29年度における部会の活動計画について

編集後記

FD推進センターの機能強化に伴い本センターが設立されて早半年が経ちました。この度、「高等教育推進センターニュース」創刊号が発行できましたのも、ご多用の中ご寄稿くださった教職員のみなさま、関係各所のみなさまのお力添えのおかげにほかなりません。深く感謝申し上げます。ご拝読いただいてお察しくくださった通り、本

センターが取り組む活動は多岐にわたります。学修成果の指標開発、アクティブ・ラーニングの促進、国内外の高等教育機関の動向調査、教職員のさらなる職能開発、教学データの活用…。しかし、どんな場面であっても、東洋大生が人生のどこかで「東洋大学で学んでよかった」と心から実感してもらえることを強く願って、そんな純粋な思いを忘れずに現前する課題に真摯に取り組んで参ります。今後ともみなさまのご協力ご理解のほどどうぞよろしくお願いいたします。（文責：高等教育推進センター員 矢野）

CENTER
for Promotion of Higher Education
東洋大学 高等教育推進センターニュース

東洋大学高等教育推進センターニュース 創刊号

発行：東洋大学高等教育推進センター
発行日：平成29年9月30日
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
TEL 03-3945-7253 FAX 03-3945-7238
e-mail: mlfdsdien@toyo.jp
URL: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>



東洋大学は平成26年度に（財）大学基準協会による大学評価（認証評価）を受け、「大学基準に適合している」と認定を受けました。この認定マークは、大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることのシンボルとなるものです。